

三代目萬代橋 ①

完成年月日	: 昭和4 (1929) 年8月23日
全長	: 約307m→新潟地震後は約306.9m
幅	: 約22m
工事費	: 約240万円
設計者	: 福田武雄

■ 6連アーチの橋

三代目萬代橋は、信濃川の改修による川幅減少を期に長さを短縮し、増加する交通量と自動車の通行に耐えられる永久橋として架けられました。材質は、架橋地点の地質と新潟の気候の特徴から、鉄橋より強固で維持が容易な鉄筋コンクリート製、デザインは関東大震災でも被害が少なかったアーチ橋が採用されました。



工事中の三代目萬代橋（当館所蔵）
特徴的なアーチ部分が形作られている



開通後の萬代橋の様子（当館所蔵）
多くの歩行者や自動車が往来している

設計を担当した福田武雄は、アーチの長さを中央から少しずつ縮めることで6連アーチのデザインを実現しました。橋の幅も22mと広くなり、車両も歩行者も円滑に通行できるようになりました。また、歩道下にはガス管や水道管が埋設され、ライフラインの面でも東西新潟を強く結びました。

■ 戦争と萬代橋

戦争が激化すると、多くの出征兵士や兵士を見送る行列が、新潟港へ向かうために萬代橋を渡りました。また、金属供出のため、橋の街灯や橋側灯、欄干の鉄管なども供出されました。終戦間近の昭和20 (1945) 年8月、原子爆弾の投下の恐れから新潟市民に避難命令が出されると、郊外へ通じる道路は避難する人々であふれ、萬代橋も例外ではありませんでした。



鉄管の欄が抜かれた萬代橋（当館所蔵）
昭和30年の新潟大火時の写真（部分）